

第9号：11月のイベント

ページ1～2

【糸東会ニュース】

北海道ジュニア強化練習会

ページ3～4

【糸東会ニュース】

令和6年度 高段位・称号
審査会

ページ5～6

【糸東会ニュース】

令和6年度
女性会員対象セミナー

ページ7～18

【糸東会ニュース】

第16回 アジア太平洋糸東流
空手道選手権大会

ページ19～23

【各地区協議会（県連）ニュース】

第31回空手道糸東会
関東選手権大会

日時：令和6年11月2・3日（土・日）

場所：中島体育センター

指導者：千田 裕也・稲田 隆宏

補助：北山 裕基・山本 直子・千田 深雪・嗟峨 好子・
三土 隆之

参加者：強化選手19名・その他74名

糸東会ジュニア強化選手を中心に各道場から上級レベルの選手が参加し、総勢93名が集まり練習会を行った。

前半は、稲田強化委員によるウォーミングアップ、基本練習をみっちり行った。

基本練習で強い身体を作るということを意識した。

後半は、形か組手かを自己選択して2班に分かれて行った。

形は、直近にある小学・中学選抜予選に向けた実践的練習となった。スピードの出し方、載せ方、それぞれの形のアピールポイントを意識して形全体を繰り返し練習した。

組手は、ステップ練習、反応練習などを行い、最後は、試合形式での確認を行った。

2日間に亘り、各選手にとって実りある練習会となった。



北海道ジュニア強化選手集合写真



北海道強化練習会参加選手集合写真



練習風景



令和6年度 高段位・称号審査会

日 時：令和6年11月3日（日）

場 所：兵庫県立兵庫工業高等学校

審査員：岩田源三 会長・1級資格審査員
野澤幸洋 副会長・1級資格審査員
山岡硯太郎 副会長・1級資格審査員
坂本 清 副会長・1級資格審査員
小野和宏 副理事長兼技術本部本部長・1級資格審査員
委 員：南 聡朗 指導委員会副委員長
立会人：摩文仁賢雄 宗家

兵庫県立兵庫工業高等学校において、午前高段位審査会、午後称号審査会が開催されました。

高段位審査会では、開会にあたり摩文仁賢雄宗家より、「審査会に向けた取り組みは、空手への向き合い方を考える良い機会であり、日頃の成果を十分に発揮して合格を勝ち取ってください。」と挨拶をいただきました。続いて岩田源三会長より、「糸東流の技術だけでなく、精神面についても培ってこられたものが伝わる様頑張ってください。」と受審者への激励の挨拶がされました。

緊張感漂う雰囲気の中で、6段位10名、7段位4名、8段位8名が受審し、段位審査制度に則って指定された形と、系統の異なる自由形を行い、分解を交えた口頭試問、自由組手・法形組手について日頃磨いた技を存分に発揮しました。

午後の称号審査会では、開会にあたり摩文仁賢雄宗家、岩田源三会長から、「大勢の参加に感謝します。糸東会における最高峰の審査会に恥じないよう、稽古の成果を出し切って合格を目指してください。」と激励の挨拶がありました。

称号審査は、1次審査に合格した錬士8名、教士2名、範士3名が2次審査に臨みました。受審者は論文にまとめた“自分が悟り得た技術”について、それぞれの理論を説明・実践しました。閉会式において山岡副会長より、「段位の取得によって称号の受審資格ができ、称号の取得によって資格審査員としての責任が与えられる。今後も研鑽を積んで糸東会の更なる発展に寄与していただきたい。」とお言葉をいただきました。



高段位・称号審査風景



令和6年度 女性委員会対象セミナー

日時：令和6年11月30日（土）9：30～16：00
場所：東大阪大学敬愛高等学校 空手道場
講師：山田ゆかり（女性委員会委員長）
小出凜美（女性委員会委員）
羽良美由紀（女性委員会委員）
助講師：角 豊実（東大阪大学敬愛高等学校 教諭）
組手要員：東大阪大学附属敬愛高等学校 空手道部10名
参加者：糸東会女性会員8名
講習内容：組手練習法・指導法・組手審判講習

11月30日（土）、東大阪大学敬愛高等学校空手道場において、令和6年度女性会員対象セミナー（組手技術・審判講習）が開催された。

午前の部は、最初に角助講師によるウォーミングアップの中で、ラダートレーニングを行い、左右交互に足を外に出すステップを繰り返し、運動神経、瞬発力を養うメニューを取り組んだ。

続いて小出講師による基本練習ではポイントをわかりやすく、取り入れやすい内容を指導していただいた。その後、角助講師による組手の基本となる練習は、受講生と組手要員の高校生と共に、参加者全員で意見交換をしながら行った。

ランチタイムでは参加者間の交流として、ランチミーティングの中で自己紹介を行い、本講習に参加した目的、いま目指していること、空手の楽しさ等、それぞれの思いを話し交流を深めあった。

午後の部では、羽良講師による組手審判の座学での競技ルール、心構えなどを女性ならではの向き合い方を中心に講義いただき、実技では受講者が実際に審判を行い、質疑応答の場を交えながら素晴らしい練習会となった。

少人数のセミナーとなったが、講師・助講師は各々指導者としての指導方法を伝え、きめ細やかな指導と温かな雰囲気ですeminarを終えることができた。

今後も女性委員会が発足した目的である「女性指導者や競技者の育成、空手道の女性への普及・振興、女性指導者に対する講習会の開催」の実現に向けて活動を続けたい。



組手審判講習風景



講師と受講生の集合写真



受講生に指導する角助講師

第16回アジア太平洋系東流空手道選手権大会

日程：令和6年11月27日～12月2日

開催国：シンガポール

参加選手戦績

アジア太平洋系東流空手道選手権

TEAM JAPAN

senior

男子形 優勝🏆 佐藤優輝

女子形 優勝🏆 北口歌桜

男子組手

-67kg 優勝🏆 中川愛翔

-75kg 優勝🏆 村上洋斗

-84kg 優勝🏆 松本龍魁

女子組手

-55kg 優勝🏆 黒田愛乃

Jr.

12-13 形 ベスト8 宮本 駿

14-15 形 優勝🏆 福井敢太

2位🥈 菅原翔吾

組手

12-13 -50kg 優勝🏆 宮本 駿

12-13 +50kg 優勝🏆 吉岡侑季

14-15 -57kg 1回戦 高野 秀斗

アジア太平洋糸東流空手道選手権大会を振り返って

監督 井戸康善

「日本の高い技術と心技体の強さ、礼節とマナーをアジアに発信しよう」
チーム結成時にあげたチームコピーションのもと ONE TEAM JAPAN で大会に挑みま
した。

大会初日のジュニアが緊張の中、海外特有の進行の遅れで 22 時をまわる試合になりま
したが、タフで力強い戦いをみせてくれチームに力が宿りました。
その勢いを受けて翌日のベテラン、シニアの選手が奮闘し圧倒する試合だけでなく、接
戦になっても競り勝つ強さや逆境にうち克つ心の空手を体現してくれました。

男子組手の村上選手の終了間際の執念の逆転劇。今大会最終試合となった中川選手の
6-9 から上段蹴りで追いつき、残り 13 秒で連続 3 得点した激闘では、会場に JAPAN コ
ールが巻き起こりました。
日本の ONE TEAM が起こした力が会場をも一つにする素晴らしい戦いに感動しまし
た。

また、各国の選手とコミュニケーションをとり、笑顔で写真を撮る姿に国際大会の醍醐
味を感じましたし、ジュニア世代の子たちがシニア選手として将来この場で活躍する姿
を想像することができました。
そして、試合後に観客席を掃除する姿や日本の礼節やマナーが各国から賞賛をいただい
たことが何より嬉しく TEAM JAPAN の魅力だと感じました。

摩文仁賢雄宗家、岩田源三会長をはじめ、役員や審判の先生方、大会参加にご尽力賜り
ました糸東会の皆様、大会をサポートいただいた保護者の方々、日本でご指導いただい
たコーチの方々、関係各位のおかげで素晴らしい経験をさせていただきました。
今後も更なる成長と糸東会の発展に貢献できるよう、プレーヤーズセンタードでチーム
一丸になって取り組みたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願
い申し上げます。

コーチ 井上修

今回私はコーチとして参加させていただきました。

シニア、ジュニア、ベテランの各カテゴリで日本の選手がすばらしい成績を収められた
ことは大きな喜びです。

特にシニアのカテゴリでは年々各国の技術が向上しており特に台湾、カザフスタン、香
港、ニュージーランド、等はフィジカル面のみならず、技術面でもすばらしい物を持っ
ている選手が多数いました。

その中でシニア選手は全種目優勝という快挙を成し遂げることができ本当にすばらしい戦いができたと思います。

ジュニア選手は知らぬ土地、言語も十分通じないという不安の中、さらに終了時間が夜10時を過ぎるとい国内では考えられない状況で集中力を保ち最後まで戦い抜けたと感じています。

参加した選手は本当に貴重な経験を積むことができたと思います、この大会の経験を活かして次の目標に向かっていただきたいと思います。

また大会期間中、終了後には日本の先生方、外国の先生、選手から日本チームの強さ、そして何より礼儀正し立ち居振る舞いを賞賛する声が沢山聞かれました。

特に大会後の観客席の掃除をする日本チームが話題になり、私も日本チームの一員としてこの大会に参加できた事をととても誇りに思います。私自身も大会を通し非常に貴重な経験をさせていただきました。今回経験させていただいた事を2026年の糸東流世界大会に向け活かしていきたいと思います。最後に大会主催のシンガポールの先生方、役員の皆様、摩文仁宗家、岩田会長をはじめ参加された日本の役員の先生方、井戸監督、選手、サポーターの皆様、大会に関わったすべての方には感謝の意を表し締めさせていただきます。

TEAM JAPAN 主将 松本龍魁

井戸先生からも自分からも、礼儀やマナーの部分をしっかりしようと言わせてもらい大会に挑みましたが、試合ではもちろんですが、試合後の観客席の掃除や見る態度などそれ以外のところでもしっかりして頂き、それが他の国の方々からも褒めて頂きすごく嬉しく思いました。

自分がキャプテンをさせて頂き、それらしきことはあまり出来なかったですが、チーム一丸となって練習や応援している姿を見て、このチームで戦えたことを誇りに思います。

井戸先生、井上先生をはじめ、役員や審判の先生方、糸東会の皆様、サポートしていただいた保護者の方々のおかげで素晴らしい経験をさせていただきました。ありがとうございました。

今後の選手の活躍を期待しています。また、今後も teamJapan、ONETEAM として取り組んでいきたいと思っています。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

シニア-67kg 中川愛翔

今大会は、自分にとってこれからへの成長に繋がるとてもいい大会でした。もともと同じ日程で始まろうとしていた試合もジュニアとシニアで別日に変更になり、大会初日は全力でジュニアのサポートをしようと思いました。普段、あまり自分から喋ることはないですし、自分はジュニアの時は海外の試合は出場したことがありませんでしたが、中学生の自分がこの場にいたらと視点を変えて接することが大事だと思いました。何をしたらジュニアの子達は不安や緊張がなくなるだろうなど考えて行動できたと思います。初めての海外での試合で日本を背負って戦うジュニアの姿にとても心が熱くなりました。次の日のシニアの試合では、道場の先輩である佐藤選手、同い年の北口選手が日本の空手道を見せつけた迫力のある形で優勝してさすがだと思いました。2階席で動画を撮っているとマレーシア在住の日本人の方に「日本の選手の形は全然違いますね。とても美しいです。」とおっしゃっていて自分のことのように嬉しかったです。そして、組手でもスピードを活かした黒田選手の組手で日本チーム3つ目の金メダル。そこから、松本選手の安定感のある強い組手、村上選手の粘り強い組手で日本シニア王手のあとひとつとゆうところで自分の試合が始まりました。ある意味、最後の試合で良

かったと思います。ジュニアが繋ぎ、シニアが圧倒するとゆう最高のバトンをいただいたこと。日本が one team になり、応援してくれたこと。こんな心強い試合は人生で初めての経験でした。

team JAPAN は、とてもいいチームでした。

自分1人では決してあの舞台であの戦いはできませんでした。チーム一丸となつての応援やサポート、監督・コーチの方のアドバイスや鼓舞など本当に日本チームが勝利を掴みにきた。とゆうような印象でした。試合だけでなく大会終了後の清掃や挨拶なども含めて海外の方に憧れられるような日本チームを体現することができていたと思いました。今大会は、いろいろな方々のサポートや支援のおかげで試合ができたことを本当に感謝しています。そして、応援してくれた仲間や外国の方にも感謝です。正直、得点が6-9になった時、諦めそうになりました。しかし、どんなに自分がしんどい状況でも「大丈夫。」や「いけるよ。」とずっと声出し続けてくれたあの歓声が背中を押してくれるような気がしてとても力になりました。改めて応援のすごさや恐ろしさを実感しました。みんなで取った金メダルは最高の思い出です。本当にありがとうございました。

今後については、まず、寝坊をしないこと。当たり前のことをしっかりできるようにします。井戸先生、今大会期間中、いろいろとご迷惑をおかけしてすみませんでした。

シニア 佐藤優輝

11月29日と30日に開催された糸東会のアジア大会に参加し、非常に多くのことを感じ、学びました。まず、海外選手のレベルが年々向上していることを実感しました。形も組手も、WKFの大会に出場している選手が増えており、その技術と精神力の高さに驚かされました。また、WKFの大会に出場していない選手たちも、試合後に日本人選手に日々の練習内容やトレーニング方法について質問する姿が見られ、その向上心に感銘を受けました。彼らの熱意と努力は、確実に糸東会全体のレベルを引き上げていると感じました。

次に、Team JAPAN についてです。昨年度の世界大会から井戸先生が掲げてきた「One team」というテーマが、今回のアジア大会でも見事に体現されました。少数精鋭の派遣ながら、ジュニア選手が試合を行う際にはシニア選手がサポートに入り、逆の場合も同様にまとまった応援が行われていました。この一体感は、選手たちのパフォーマンスをさらに引き出す力となりました。また、日本人選手の礼儀やマナー、特にコート内での振る舞いや大会後の清掃活動が高く評価されました。これからも海外選手の見本となる集団でありたいと改めて実感しました。

そして、今回の大会を通じて、多くの方々への感謝の気持ちを強く感じました。摩文仁賢雄宗家、岩田会長をはじめ、役員や審判の先生方、コーチ陣、そしてTeam JAPANの皆様のおかげで、素晴らしい経験を積むことができました。この場を借りて、心より感謝申し上げます。皆様の支えがあってこそ、私たち選手は成長し続けることができるのだと改めて感じました。

最後に、今後についてです。これからも糸東会に所属していることを誇りに思い、向上心を持って稽古に励んでまいります。今回の大会で得た経験と学びを糧に、さらに高みを目指して努力していく所存です。ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

シニア 北口歌桜

今回のアジア太平洋大会を通じて、国境や言語、文化を越えた舞台上で戦う中で、競技そのものだけでなく、お互いを尊重し合う姿勢や絆の大切さを改めて実感しました。また、他国の選手たちの身体能力の高さを肌で感じ、日本人選手としての誇りと責任を持って行動することの重要性を強く意識するなど、国際大会でしか得られない貴重な経験が数多くありました。

私は小学校6年生の頃から糸東会の強化選手として活動し、ずっとシニアで活躍する先輩方に憧れ、その背中を追いかけながら努力を続けてきました。そして、一昨年からTeam Japanの一員として戦う機会をいただき、今回も日の丸を背負う重責と誇りを胸に大会に臨むことができました。昨年から井戸先生が掲げてくださった「ONE TEAM」の精神を体現し、選手同士が互いに支え合いながら、最高のパフォーマンスと結果を目指す過程で、多くの学びを得ることができました。

特に、いつもチームを引っ張り続けるかっこいい先輩方、最後まで粘り強く闘い抜く同期、チームの雰囲気を明るくしてくれる後輩たちの存在があり、これこそがTeam Japanの強さであり、「ONE TEAM」だと心から感じました。

また、このような貴重な経験をさせていただけたことに、関わってくださったすべての方々に心から感謝しています。井戸先生、井上先生をはじめ、役員、審判の先生方、そして応援してくれた家族や友人の支えがあったからこそ得られた結果だと実感しています。

今後はこの経験を糧に、さらに高い目標に向けて毎日の練習に励みます。そして、幼い頃に憧れていたシニア選手たちのように、私自身も誰かの憧れの存在になれるよう努力したいと考えています。

これからもどうぞご指導ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。

シニア-75 村上洋斗

他の国をみても日本の礼儀のよさ、技術の高さを感じました。礼儀の良さを感じたのは、組手競技の際外国の人は負けても勝ってもあまり礼をせずに監督席側のコートの方から出て行ったりとしているが日本の選手は必ず礼をしたり、相手の選手に敬意をはっていると感じました

次にteam Japanについては、井戸先生掲げる目標の通りシニア、ジュニア関係なく試合に望み応援もできてワンチームを感じられました。

次に感謝の気持ちはこの様な試合に出られる機会を作って頂くことにより、日本いがいの選手との対戦や交流ができ、貴重な経験をありがとうございます。

最後に今後はまだ学生の試合も残っているので、まずは目の前の試合から一つ一つ勝ち近大の完全優勝を目指します。

シニア 黒田愛乃

私は今回の大会で、競技に対する姿勢は国籍関係なく大切であることを学びました。応援の仕方やかけ声で状況が変わったり、審判の旗が上がりなくなったり分かりやすく見えたからです。礼儀という点でも強さや立ち振る舞いを日本人として見せることが出来て良かったなと思います。

またワンチームとして、改めてチームワークの大切さを感じました。ジュニアが試合の日はシニアが動画を撮ったり応援に回ったり、シニアの日はジュニアが動いてくれたりとお互いが助け合って行動することが出来たからです。誰か1人が意識するだけでは出来ないことなので、それが皆でできたことも良かったし、これから生きて行く上でも凄く大切であると感じました。今回の経験を活かしてこれからも空手だけではない強さももっと身につけて、糸東会に貢献できるような選手になりたいと思います。ありがとうございました。

ジュニア 福井敢太

今回の糸東流アジア大会に出場し、監督やコーチの先生方、シニア選手、ジュニア選手、サポートしてくれた保護者の皆様にお世話になりました。

アジア大会で感じた事は、Team Japanのメンバー全員で「One Team」として戦えた事です。

形を打ち終わると拍手をしてくれたり、判定がなかなか出ない時にシニア選手がアドバイスをしてくれたり、緊張している時に面白いことをして心を落ち着かせてくれたりと、いろんな場面で心の支えになってくれました。

Team Japanについては、監督の井戸先生、コーチの井上先生をはじめ、関わってくださった先生方ともコミュニケーションを取ることが出来ましたし、シニア選手もジュニア選手も全員が優しく、困った時でも話しかけやすかったので、このチームでの安心感はハンパないものがありました。

また、ジュニア選手保護者の皆様にも様々な面でサポートしてもらいました。マレーシア観光とシンガポール観光の時にもサポートにしてもらったおかげで思う存分楽しむ事が出来ました。この大会に携わってくれた皆様に感謝します。

今後もこのような大会があったら出場し、良い結果を残せるように努力していきます。将来はシニア強化選手になる事が目標で、キャプテンを任せてもらえるような選手になれるように頑張ります。

6日間と短い期間でしたが楽しかったです。再び Team Japan の皆様と会える事を楽しみにしています。ほんとにありがとうございました。

ジュニア 菅原翔吾

今回のアジア大会に team JAPAN の一員として参加できて感謝しかないです。本当にありがとうございました！

初の海外での試合で海外の選手のレベルやどのような形を打ってくるのか分からず自分に自信が持てませんでした。また試合前日に練習をすると日本との寒暖差やマットが滑りやすいなどの違いがあり練習でやってきたことをしっかり発揮できるかと不安になりさらに自信がなくなりました。

僕は試合や強化練習になるといつも緊張をしてしまい気分が悪くなる事が多いので今回の試合に影響するのが一番の不安要素でした。ですが試合前の練習でも試合でも気分が悪くなる事はなく試合当日の朝食もしっかり食べることができてエネルギーをたくさん蓄えられて不安要素がひとつなくなりました

僕は7月の台湾強化遠征で他の Jr の子と上手くやっていたか不安でしたが台湾遠征での経験があったので今回のアジア大会ではその心配はなかったです

シニアの方々の形や組手を見てとても感銘を受け良い刺激をもらいました。試合の動画などを見直して参考にし、これからの練習に活かしていきます。

もう一度海外の大会に出て自分の力で JAPAN のジャージを手に入れチームジャパンの一員として金メダルをとる事を目標として頑張ります。

最後になりましたが、井戸先生、井上先生、水流先生を始め他の皆様のサポートのおかげで今回の経験は一生の財産になりました。

今後ともご指導よろしくお願ひしますまたお会いできる日を楽しみにしています！！！！

ジュニア 宮本駿

大変お世話になりました

今回アジア大会に出て日本の礼儀の良さに感心を受けました。

勝っても負けても決して相手を傷つける行為は絶対にしないで、相手に好意を表す態度をとっているのを見てそのように思いました。

team Japan については、みんな揃って練習するとき初対面なのに関西、関東のシニアやジュニアの選手みんな、優しく明るく接してくれました。この team Japan でよかったなど、強く思いました。

team Japan の選手は、自分のアップの時に付き合ってもらった選手が多く居てその事には本当にありがたい気持ちでいっぱいです。

今後このような海外の試合でまた一緒になるようなことがあればぜひ今回よりさらに仲良く、楽しく過ごしたいです。

ジュニア 高野秀斗

僕は、今回のアジア太平洋大会に出ると決まってから初めてのことばかりで不安でいっぱいでした。初めての体重別、初めての WKF のルール、防具も日本とは違うし、言葉も違うし。空港に着いてからも緊張してうまくコミュニケーションが取れませんでした。しかし、会場についてジュニアチームや先輩方とアップをしたり、先生方にアドバイスをもらったりして少しずつ緊張もほぐれていきました。

大会当日みんながメダルを取っていく中、自分は初戦敗退でした。

相手のカザフスタンの子は、ドクターの所から戻ってきた僕に対して、手を引っ張って心配してくれて、言葉は通じなかったけど良い選手でした。でも負けたことが悔しくて、一緒に写真を撮ることもできませんでした。

今の僕の目標は、もう一度アジア大会に出てあの選手に勝って笑顔で写真を撮ること、メダルを日本に持って帰ること、先輩達の着ていたチームジャパンのユニフォームを自力で手に入れることです！

僕に次の目標を背中であげてくれた先輩方、ありがたい言葉をたくさんくれた先生方、応援で一緒に戦ってくれて、たくさんの思い出を作ってくれたジュニアのみんな、大会に出してくれた家族にとっても感謝しています。

まずは西日本の選考会を突破できるようにまた基本から一つ一つ頑張ります。

team Japan の皆様、本当にありがとうございました！

ジュニア 吉岡侑季

今回の糸東会アジア大会に出場して監督やコーチ、シニア選手、ジュニア選手、サポートしてくれた保護者の皆様に大変お世話になりました。

僕は今回初めて世界という場で戦いました。行くことへの不安や海外の選手がどのように戦ってくるのか、いつも以上に不安が増し自信が持てませんでした。また、日本との環境の違いや海外の選手たちとコミュニケーションがなかなか取れず試合以外でも神経を使うことがたくさんありました。

次に「TEAM JAPAN」についてですが極度の人見知りの僕でも楽しく応援したり、してもらったりと「ONE TEAM」をとっても感じることができました。僕は試合をしていてカウントを JAPAN の選手たちが叫んでくれていて試合中でも聞こえてより考えて動くことができとても感謝しています。

僕が今回の大会で驚いたことは、日本の礼儀の良さです。試合後の礼など当たり前に行っている日本ですが、海外の選手は試合が終わったらそのまま自分の席に戻ってしまい日本の礼儀の良さ、敬意を表する姿が日本人として誇りに思います。

このような機会を通じてこのチームで戦えたこと、日本の選手や海外の選手と交流を持てたこと、監督、コーチ、皆様のおかげでとても貴重な経験ができました。普段の僕では海外なんて怖くて行けないと思ってしまっていたのでとても感謝しています。ありがとうございました。

今の目標としては 12 月の中学選抜埼玉県予選に向けて今回学んだことを活かし、より技術を向上させ優勝を目指します。また皆様と一緒にになれるよう頑張りたいと思います。

今後ともご指導よろしくお願ひします。



参加選手との交流風景



TEAM JAPAN 集合写真



岩田会長と表彰者記念写真



参加選手集合写真



第31回空手道糸東会関東選手権大会

日時：令和6年11月24日（日） 8：00～17：30

場所：小瀬スポーツ公園武道館アリーナ（山梨県）

主催：全日本空手道連盟糸東会関東地区協議会

選手：540名参加

第31回空手道糸東会関東選手権大会が山梨県の小瀬スポーツ公園武道館アリーナにおいて参加選手540名で行われた。

開会式の中で「祝糸東会九段位授与記念品贈呈式」が行われ、栃木県の野澤幸洋先生、埼玉県の前口高司先生、大出敏夫先生（代理人埼玉県糸東会横田会長）に岩田源三会長より記念品が贈呈された。

今回の大会は、初めての試みとして午前組手競技を行い、午後組手競技を行った。午前の組手競技に於いては、大きな怪我をする選手もなく各種目概ね大会進行表通りに行われた。

大会の最後には、団体組手を行い大いに盛り上がった。大会結果は、団体組手は、優勝：栃木県・準優勝：茨城県、昨年に続き、男女共総合優勝は、埼玉県となった。次回は、神奈川県で開催。

（大会結果の詳細はHPに掲載）

第31回空手道糸東会関東選手権大会会場の様子



野澤幸洋先生



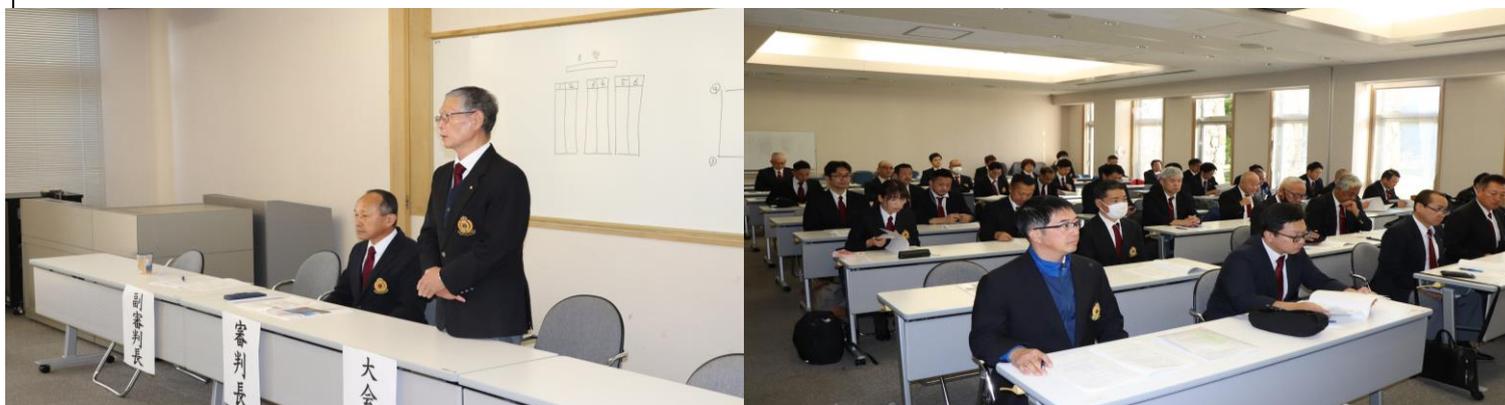
原口高司先生



大出敏夫先生代理人



開会式の様子



審判会議の様子



組手の様子



組手の様子



団体戦決勝戦の様子



団体戦決勝戦 赤 茨城県（優勝）



団体戦決勝戦 青 栃木県（準優勝）



団体組手決勝戦の様子



男子総合優勝・女子総合優勝・総合優勝：埼玉県